



平成22年7月16日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎  
(コード番号: 4572)  
問合せ先 取締役 経営管理本部長 相川 法男  
(TEL. 078-302-7075)

当社が製造・販売権を保有する DGK $\beta$  ノックアウトマウスに関する

研究成果の科学雑誌掲載について

本日、添付のプレスリリースを発表しましたので、お知らせいたします。  
なお、本件による当社の本年度業績に与える影響はありません。

以 上

平成 22 年 7 月 16 日

報道関係者 各位  
プレスリリース

カルナバイオサイエンス株式会社

## 当社が製造・販売権を保有する DGK $\beta$ ノックアウトマウスに関する

### 研究成果の科学雑誌掲載について

当社はキナーゼをターゲットとした創薬支援事業及び創薬事業を行っておりますが、これらの事業の研究活動の一環として大阪大学より「ジアシルグリセロールキナーゼ  $\beta$  (以下、「DGK  $\beta$ 」) ノックアウトマウス」の製造・販売権を得ております。

このたび、当社の共同研究パートナーである岐阜薬科大学の原英彰教授、及び神戸大学の齋藤尚亮教授を中心とする研究グループは、脳の「海馬」と呼ばれる部位に多く存在する DGK  $\beta$  が記憶に関与していることを DGK  $\beta$  ノックアウトマウスを使った実験で証明し、その研究成果を研究論文として米国オンライン科学雑誌「プロス・ワン (PLoS One)」に発表いたしました。

(研究論文の URL : <http://www.plosone.org/article/info%3Adoi%2F10.1371%2Fjournal.pone.0011602>)

同研究グループは DGK  $\beta$  ノックアウトマウスが正常なマウスに比べて記憶力が劣り、記憶の形成・保持に障害を持つことを発見しました。DGK  $\beta$  の働きの更なる研究により、アルツハイマー病などの精神疾患メカニズムの解明や新薬の研究開発が期待されます。

当社は新薬の研究開発を行う製薬企業に向け、DGK  $\beta$  ノックアウトマウスを提供することを検討しており、現在、米国においてテストマーケティングを行っております。

以 上

(ご参考)

1. 用語解説

- ・海馬：学習や記憶の形成に重要な役割を果たしている脳の一部であり、DGK $\beta$ が多く存在します。
- ・ノックアウトマウス：遺伝子の機能解析のために、任意の遺伝子の機能を破壊したマウス。

2. カルナバイオサイエンスの概要

- (1) 名 称： カルナバイオサイエンス株式会社
- (2) 代 表 者： 代表取締役社長 吉野公一郎
- (3) 所 在 地： 神戸市中央区港島南町1丁目5番5号
- (4) 設立年月日： 平成15年4月10日
- (5) 事 業 内 容： キナーゼ阻害薬の創薬基盤技術を用いた製品・サービスの販売（創薬支援）  
および医薬品の研究・開発（創薬）
- (6) ウェブサイト： <http://www.carnabio.com>

【本件に関するお問い合わせ先】

カルナバイオサイエンス株式会社

経営管理本部 経営企画部 IR担当

TEL：078-302-7075